

台風や集中豪雨などの風水害は、ある程度発生や経過を予測することができます。普段から気象情報に注意して、被害の拡大を防ぎましょう。

台風

強風と大雨をともなった熱帯低気圧のことで、最大風速がおよそ毎秒17メートル以上で「台風」と呼ばれます。台風の強さや進路は、ある程度予測が可能です。気象情報に注意して被害を出さないようにあらかじめ備えましょう。



風の強さと被害

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/ 秒)	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物	およその 瞬間風速 (m/ 秒)
やや強い風	10 以上 15 未満	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	樋（とい）が揺れ始める。	20
強い風	15 以上 20 未満	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 高所での作業は極めて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20 以上 25 未満	何かにつかまっていけないと立ってられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。	細い枝の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム（被覆材）が広範囲に破れる。	30
	25 以上 30 未満			固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	40
猛烈な風	30 以上 35 未満	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック塀で倒壊するものがある。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	50
	35 以上 40 未満			住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	60
	40 以上				

※平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。

資料：気象庁

集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して激しく降る雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、台風と比べて、その予測は比較的困難です。雨量によっては、河川氾濫や内水氾濫などによる大きな被害が予想されます。気象情報に十分注意し、平時から万全の対策をとるようにしましょう。



雨の強さと降り方

雨の強さ (予報用語)	1時間雨量 (ミリ)	雨の降り方	屋外の様子
やや強い雨	10 以上 20 未満	ザーザーと降る。 地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	地面一面に水たまりができる。
強い雨	20 以上 30 未満	どしゃ降り。 傘をさしていてもぬれる。	小さな川や側溝から水があふれる。
激しい雨	30 以上 50 未満	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。
非常に激しい雨	50 以上 80 未満	滝のように降る。 傘は全く役に立たなくなる。	マンホールから水がふき出す。
猛烈な雨	80 以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大きな災害が発生するおそれがあり、厳重な警戒が必要。

資料：気象庁

『線状降水帯』に注意しましょう

発達した雨雲（積乱雲）が次々と列をなし、同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300 km程度、幅20～50 km程度の強い降水をともなう雨域を「線状降水帯」といいます。雨雲が消滅せず、同じ場所で数時間停滞することにより大雨となるもので災害の危険性が高まります。毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じているため、警戒が必要です。

竜巻・雷

竜巻や雷は短時間で大きな被害をもたらします。竜巻注意情報、雷注意報などの気象情報や空の様子に注意しましょう。



竜巻から身を守る

- ◆ 雨戸やカーテンを閉め、窓から離れる。
- ◆ 突風や飛来物を避けるため、頑丈な建物に避難する。
近くにそれらがいない場合は、物陰やくぼみなどに隠れて竜巻の通過を待つ。
- ◆ プレハブなどの仮設建築物や太い樹木なども倒壊したり、飛ばされるおそれがあるので離れる。

竜巻発生確度ナウキャスト（気象庁）
<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc>



雷から身を守る

- ◆ 頑丈な建物や自動車の中などの安全な場所に避難する。
- ◆ 開けた場所にいる場合は、電柱や樹木などの高いものから離れる。
- ◆ なるべく姿勢を低くして、持ち物が身体よりも高くないようにする。

大雪

雪が激しく降ると、公共交通機関が止まり、道路も通れなくなる可能性があります。大雪が予想されたら早めに帰宅し、降雪時や降雪後は不要不急の外出を控えましょう。



雪が降る前

- ◆ 気象情報に注意する。
- ◆ 大雪の予報が出たら、外出しないで済むように飲料水や食料、燃料を準備する。
- ◆ 冬用タイヤの装着やスコップなどの除雪用品を事前に確認する。

雪が降った後

- ◆ 不要不急の外出を控え、やむを得ず外に出る時は滑りにくい靴を履き、荷物はなるべく手に持たない。
- ◆ 積雪によるカーポートや車庫、ビニールハウスなどの倒壊や屋根からの落雪に注意する。
- ◆ 雪かきは、2人以上で作業する。

避難情報の確認と求められる行動

台風や集中豪雨などによって災害が発生するおそれがあるときに、行田市が発令する避難指示などの避難情報と気象庁などが発表する防災気象情報は、5段階の「警戒レベル」を用いて発表します。レベルごとにとるべき行動を理解して、適切な避難行動をとるようにしましょう。

	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のかけ崩れや土石流	高潮 海水面の上昇や波の打上げによる浸水	(警戒レベルごとの) 住民が とるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

避難する時に気をつけること

家屋への浸水を防ぐ

「土のう」「水のう」「止水板」を設置することで、家屋への雨水の侵入を抑えることができます。ただし、すでに浸水が発生している場合には、避難を優先させましょう。



避難は早めに

周囲が浸水する前に地域で声を掛け合って避難しましょう。特に、夜間に大雨が予想されるときは、明いうちに避難しましょう。



徒歩で避難する

車での避難は、歩行者や緊急車両のさまたげになります。また、車は浸水でエンジンが止まったり水没する危険があります。徒歩で避難しましょう。



急な増水に注意

川や用水路、田畑の用水などは非常に危険です。またアンダーパスなどの地下空間や周囲よりくぼんでいる場所は冠水のおそれがあるため、速やかに避難しましょう。



家財道具などを移動させる

浸水が心配される場合は、家財道具や生活用品を2階など高い場所に移動させましょう。また、車やバイクは大雨の前に浸水しない場所へ移動させましょう。



動きやすく安全な服装で

荷物は最小限にして背負い、両手を使えるようにしましょう。水が入ると重くなる長靴ではなく、運動靴で避難しましょう。



足元に注意

冠水した場所を歩く時は、杖や長い棒で足元をしっかりと確認しながら、側溝やマンホール、障害物などに注意して歩きましょう。



高い場所に避難する

歩行可能な水深は約50cm。水の流れが速い場合は、20cm程度でも危険となります。避難が遅れた場合は、自宅の2階や近所の高い建物へ避難し、救助を待ちましょう。



避難先は避難所だけではありません

避難所に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けて、自分の身の安全を確保することです。避難先は市が開設する避難所に限らず、自宅などの上層階、安全な場所にある親戚や知人の家なども含まれます。

災害の危険が過ぎ去るまで、一時的に身を寄せることなどを想定し、日ごろから話し合っておくことが大切です。



「在宅避難」ができるなら

【自宅等の垂直避難】

ハザードマップなどで以下の3つの条件をすべて満たしていることが確認できる場合は、自宅にとどまり安全確保することが可能です。

- 1 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない。
- 2 想定浸水深より居室が高い位置にある。
- 3 浸水しても水がひくまで我慢でき、飲料水や食料などの備えが十分にある。



「立ち退き避難」をするなら

【安全な親戚・知人宅への立ち退き避難】

普段から親戚や知人と連絡を取り合い、災害時に避難することを相談しておきましょう。

◆ハザードマップなどで避難先が安全かどうか確認をしましょう。

【安全なホテル・旅館への立ち退き避難】

避難する場合は、事前に予約や確認をしましょう。通常の宿泊料が必要になります。

◆ハザードマップなどで避難先が安全かどうか確認をしましょう。

【指定された避難所への立ち退き避難】

小・中学校や公民館など、指定された避難所に避難します。P2を参照して非常持出品を準備し、持参しましょう。

マイ・タイムラインについて

マイ・タイムラインとは、台風の接近による大雨など、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域の特性に合わせて、「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列で整理したオリジナルの避難行動計画のことです。いざというとき慌てないように、あらかじめ作成しておきましょう。

次の作成のポイントや記入例を参考にして、安全に避難するための行動を考え、裏表紙の「マイ・タイムライン記入シート」に記入しましょう。

マイ・タイムライン作成のポイント

洪水ハザードマップなどで自宅（周辺）の災害リスクを確認する

- ◆洪水ハザードマップやP16以降を参照し、自宅やその周辺に浸水のおそれがあるか確認しましょう。
- ◆避難する場合に備えて、複数の避難先と避難経路を決めましょう。
- ◆なお、自宅が安全が確保できる場合は、在宅避難も検討しましょう。



行田市洪水・内水ハザードマップ

警戒レベルごとに「いつ」「誰が」「何をするか」を確認する

- ◆自分自身、または家族で話し合い、警戒レベルごとに「いつ」「誰が」「何をするか」を記入しましょう。
- ◆それぞれにかかる時間を考えて、行動に無理がないかなど、余裕を持って行動できるように検討しましょう。
- ◆気象情報や避難情報から、どんな情報が出された時に避難を開始するか、避難のタイミングを決めておきましょう。
- ◆避難のタイミングは、家族構成や避難所からの距離など、家庭の状況を踏まえて設定しましょう。
- ◆年に一度は、マイ・タイムラインの内容を確認し、追加や変更をしましょう。

避難する時に何を持っていくかを確認する

- ◆風水害時、指定避難所では原則として食料などの物資配布は行われません。
- ◆P2などを参照し、家族構成に応じた非常持出品を考え、準備しましょう。

防災情報の入手方法を確認する

- ◆災害時、最新の正しい防災情報を入手することが迅速な避難行動につながります。
- ◆P4などを参照し、複数の情報入手方法を確認しておきましょう。

マイ・タイムライン(記入例)

行田 家のマイ・タイムライン		家族構成	行田 太郎 36 子	行田 次郎 6	妻 行田 花子 35 母	行田 花江 70	状況
							自宅は浸水想定区域の中で、浸水深は最大5m。〇〇市（浸水想定区域外）に兄が住んでいる。
経時経過	数日～1日前	半日～数時間前	数時間～0時間前		災害発生		
行政からの連絡	早期注意情報 警戒レベル1相当	大雨注意報 氾濫注意報 警戒レベル2相当	警戒レベル3 発令	大雨警報 氾濫警報 避難判断水位到達 高齢者等避難	警戒レベル4 発令	大雨危険警報 氾濫危険警報 避難指示	警戒レベル5 発令 大雨特別警報 氾濫特別警報 緊急安全確保
マイ・タイムライン	●持出品の準備 ●飛ばされやすい物を家の中に入れる ●気象情報確認	●ハザードマップで避難経路の確認 ●携帯電話を充電する ●兄に連絡する（避難する可能性を伝える） ●川の水位情報や避難情報のチェック開始	避難開始 ●隣近所に声をかけながら兄の家へ避難開始		●家族全員で兄の家に避難完了 ※兄の家に避難できない場合は、〇〇小学校へ避難	【逃げ遅れた場合】 命の危険 直ちに安全確保（自宅の2階へ移動）	
ポイント	持出品の例 ☐ 食糧 ☐ 飲料水 ☐ 充電器 ☐ 携帯電話 ☐ お薬手帳 ☐ タオル ☐ 薬、お薬手帳 ☐ ビニール袋 ☐ スリッパ ☐ 現金 ☐ 通帳、印鑑 ☐ 毛布 ☐ マスク、消毒液 ☐	事前の確認 ☐	自宅が浸水する深さ【 5 】m 氾濫河川との距離【 1,000 】m 最寄りの指定避難所【 〇〇小学校 】 までの距離【 800 】m、時間【 20 】分 想定避難先【 〇〇小学校 】まで【 50 】分 ☐ 【 〇〇小学校 】まで【 20 】分		情報入先 ☐ 気象情報 ☐ テレビ、気象庁HP ☐ 避難情報 ☐ 行田市公式SNS	避難判断 ☐ 〇が家の避難スイッチ	警戒レベル3 が発令されたら避難開始

◎事前にできることを記入しよう。

◎避難のタイミングを記入しよう。

※警戒レベル4までに危険な場所から必ず全員避難

◎警戒レベル3が発令されない場合もあるので、危険だと感じたときは速やかに避難行動を取りましょう。